

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

・修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値
r・・・半径
ST・・・あばら筋
D・・・部材の成
Q・・・部材間の内法距離
HOOP・・・帯筋
S.HOOP・・・補強帯筋
φ・・・直径
@・・・間隔

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げ形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形象のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
※ 片持スラブ上端筋の先端鉄筋は、SD259A・SD295B・SD345を使用する。 折曲げ内法寸法Rは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90° 以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B・SD345	D16以下 D19～D25	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B・SD345	D16以下 D19～D25	4d以上 6d以上

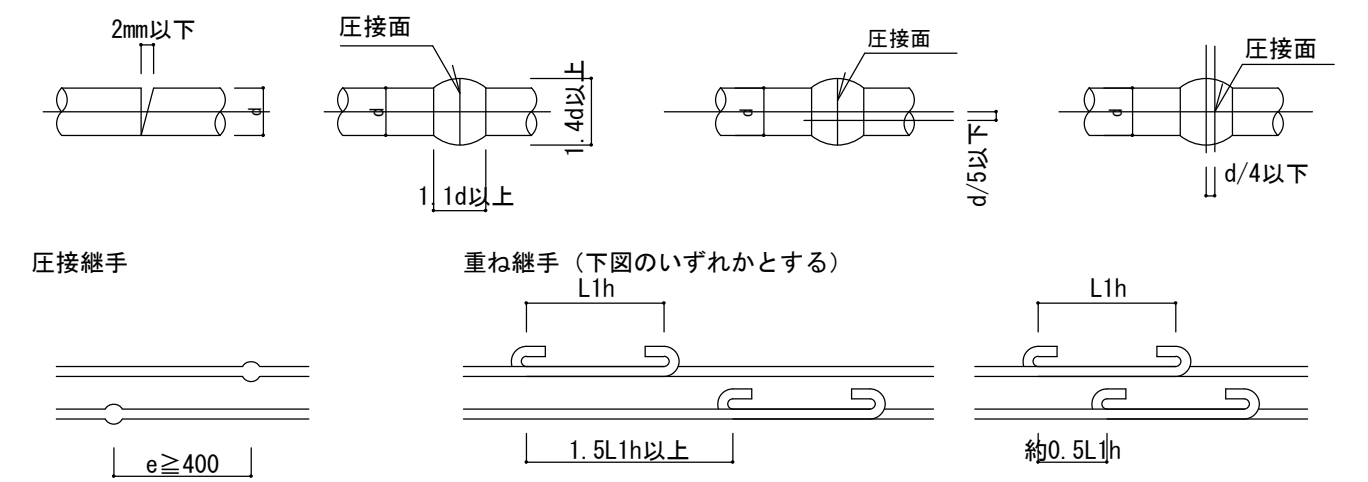
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下端筋(L3) 小梁 スラブ	
SD295A SD295B SD345	21 24 18	35d または 25d フック付き 40d または 30d フック付き	25d または 15d フック付き 10d かつ 150mm 以上	40d または 30d フック付き 45d または 35d フック付き

コンクリートは普通F_c=18N/mm²以上24N/mm²以下、軽量F_c=18N/mm²以上21N/mm²以下

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
4. D19以上の異形鉄筋は、重ね継手としてはならない。
ガス圧接形状



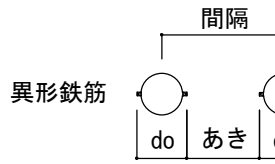
(4) かぶり厚さ

構 造 部 分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ ※※・非耐力壁	20 ※	30 ※
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30 ※	40 ※
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分基礎つなぎ梁	40	50
基礎（捨てコンクリート部分は除く）	60	70

(注) ※ 耐久性上有効な仕上げのない場合、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
また、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
※※ 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。〔8-（1）の※参照〕

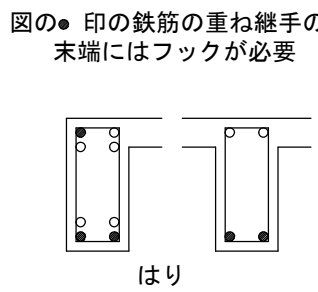
(5) 鉄筋のあき

- a. 異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5d以上
b. 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



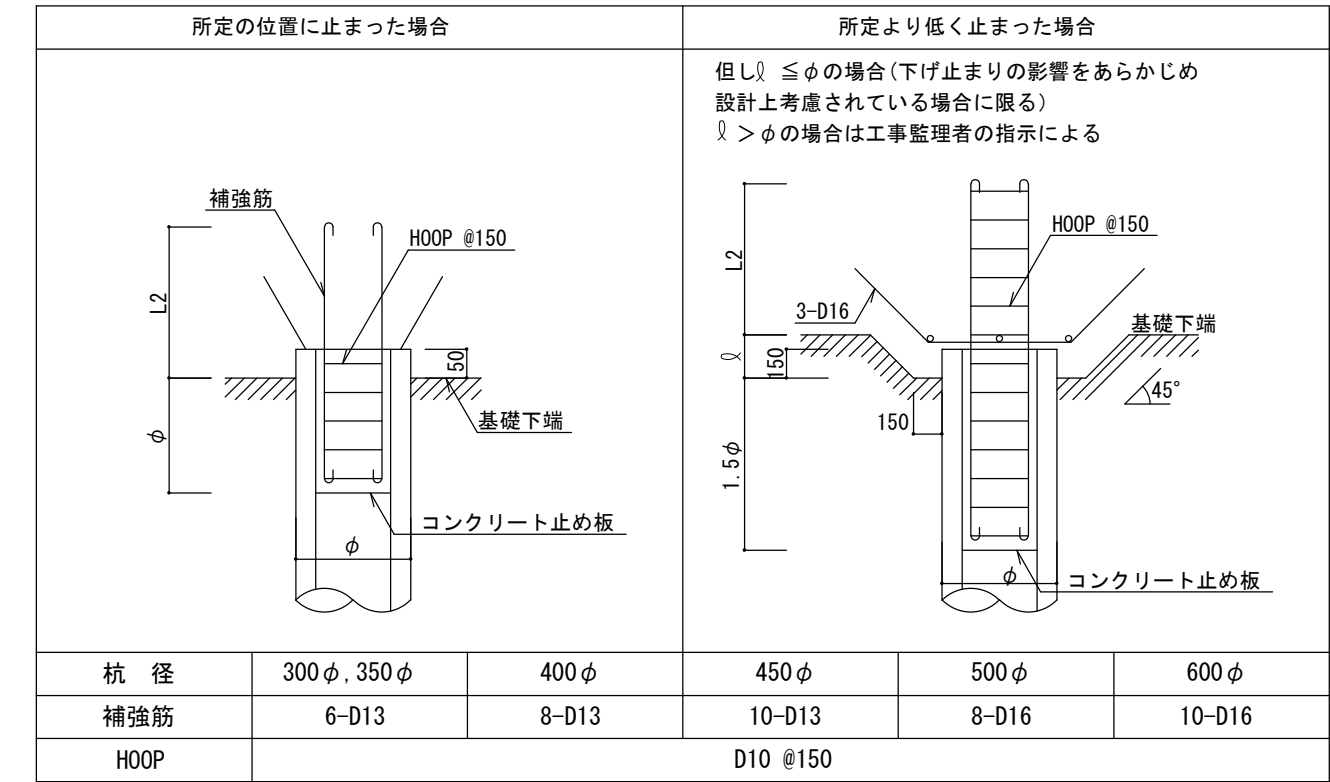
(6) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にフックを付ける)

- a. 壁長が1m以下の壁横筋の末端 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出す部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

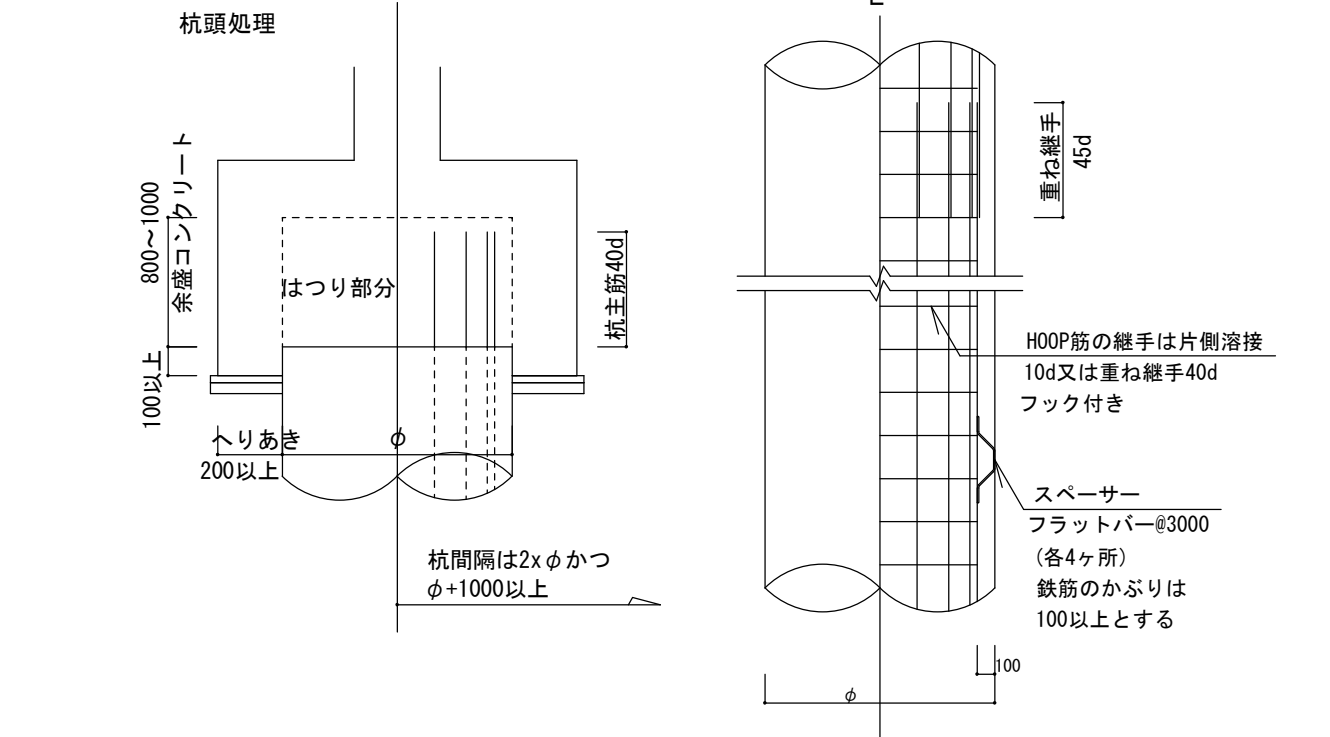


3. 杭（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること）

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う。

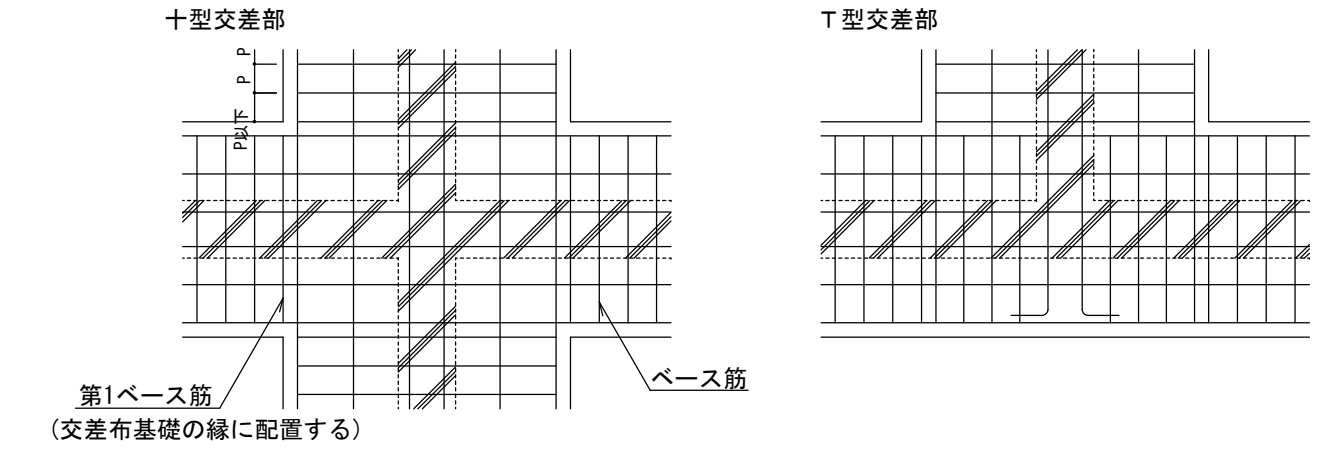
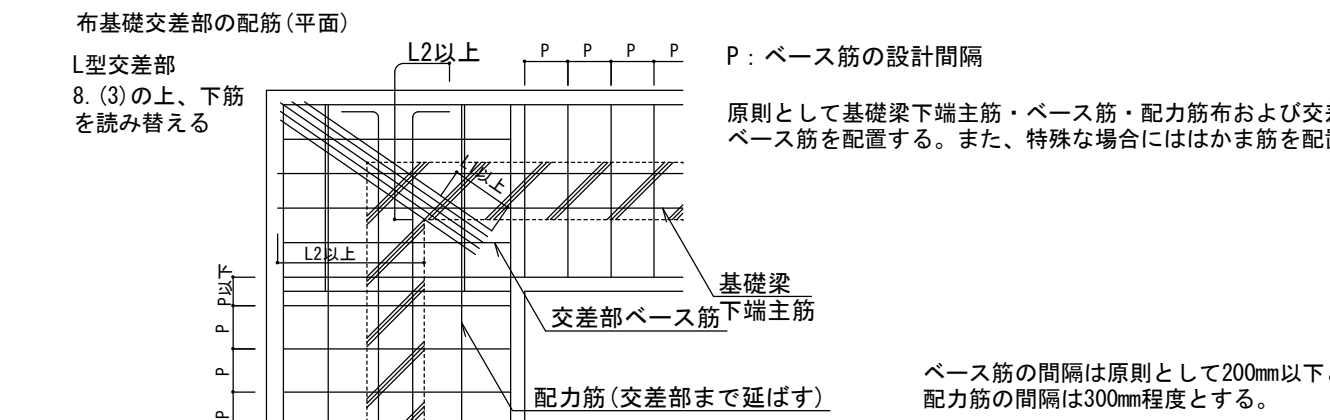
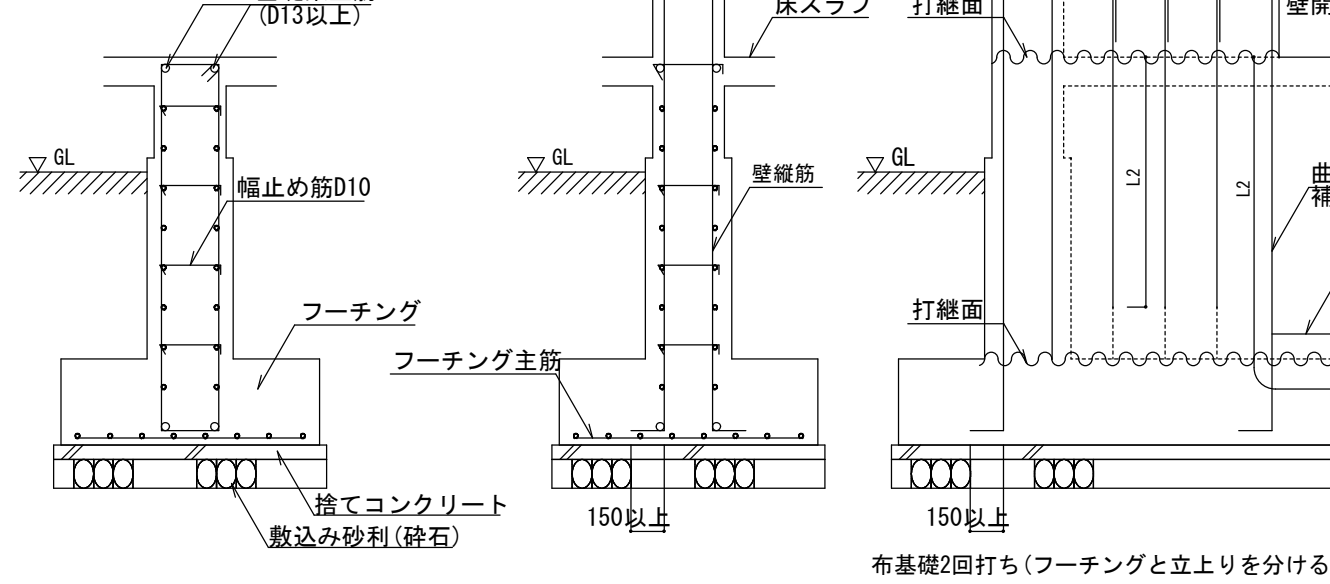


(2) 現場打ちコンクリート杭

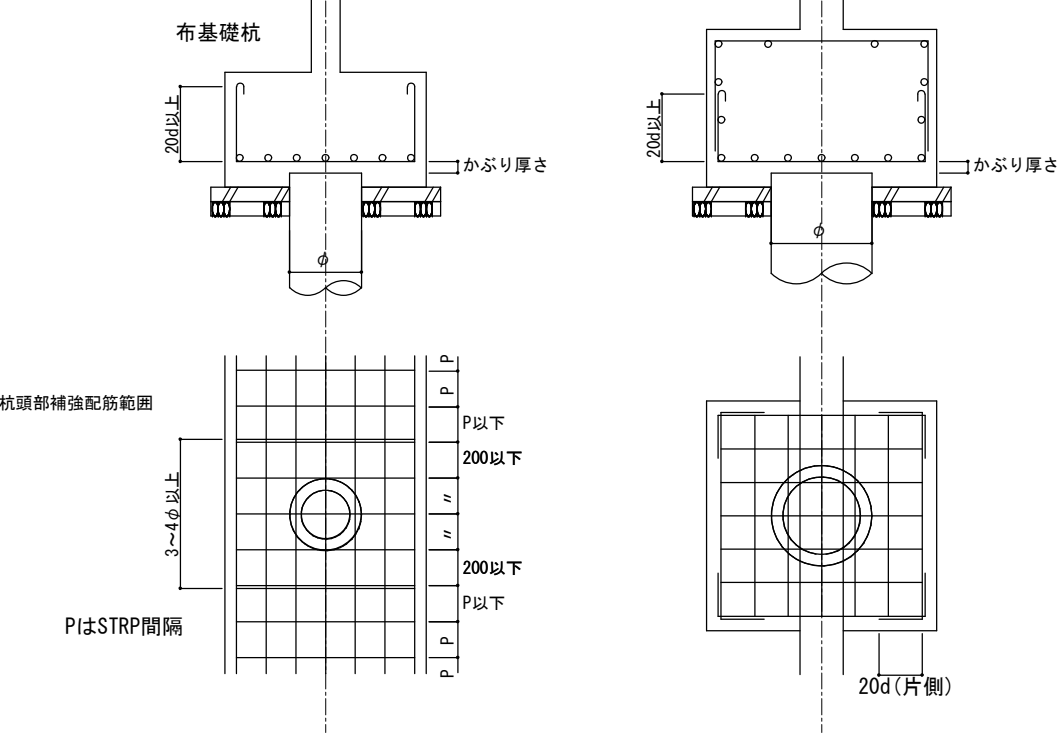


4. 基礎

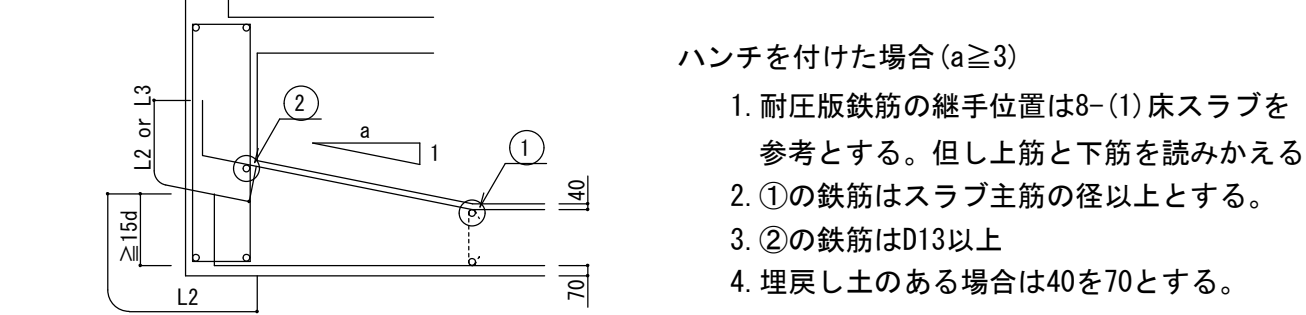
(1) 布基礎



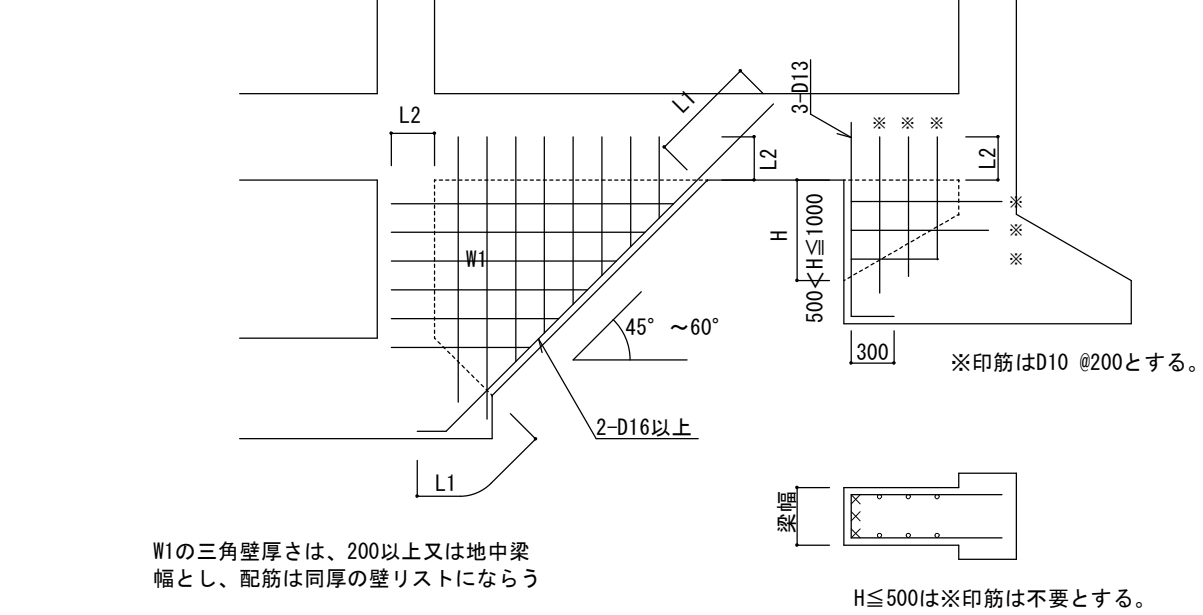
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

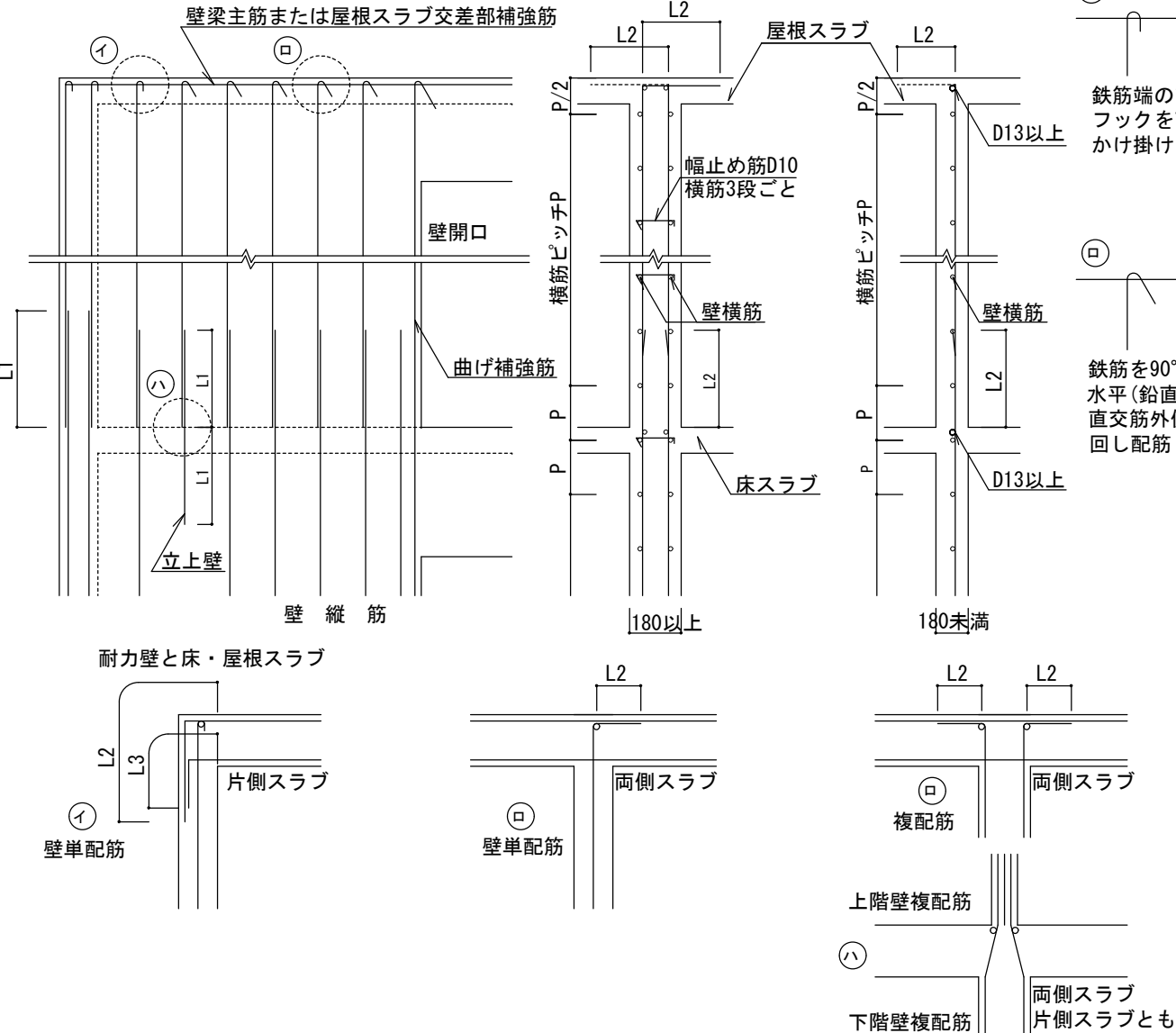


(4) 基礎接合部の補強

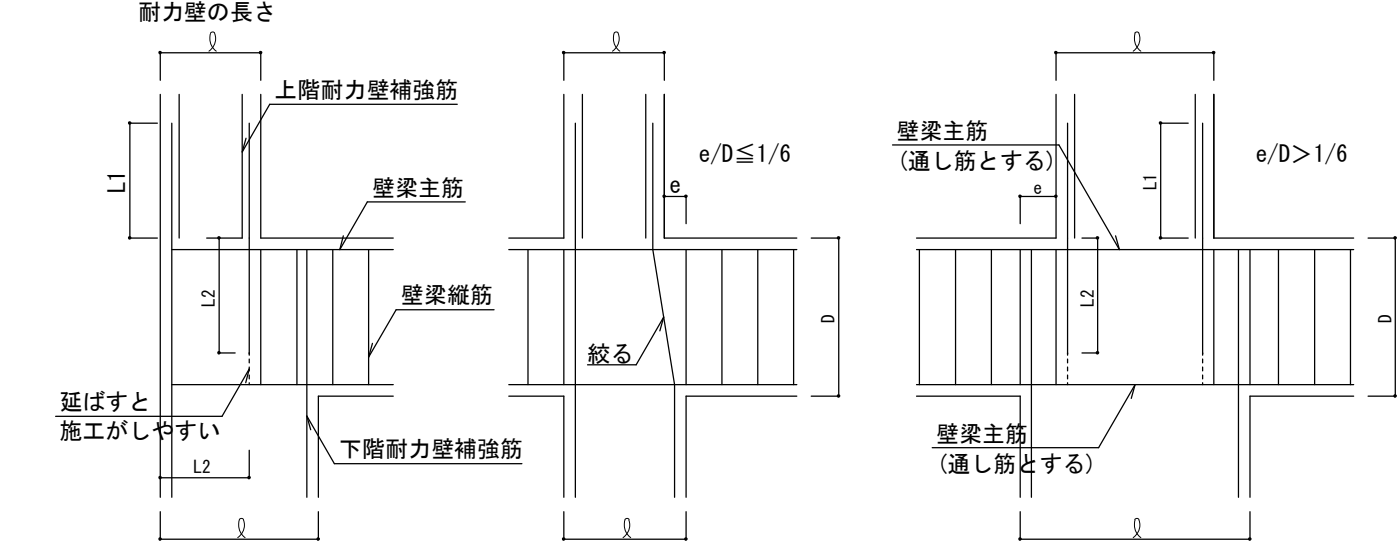


5. 耐力壁

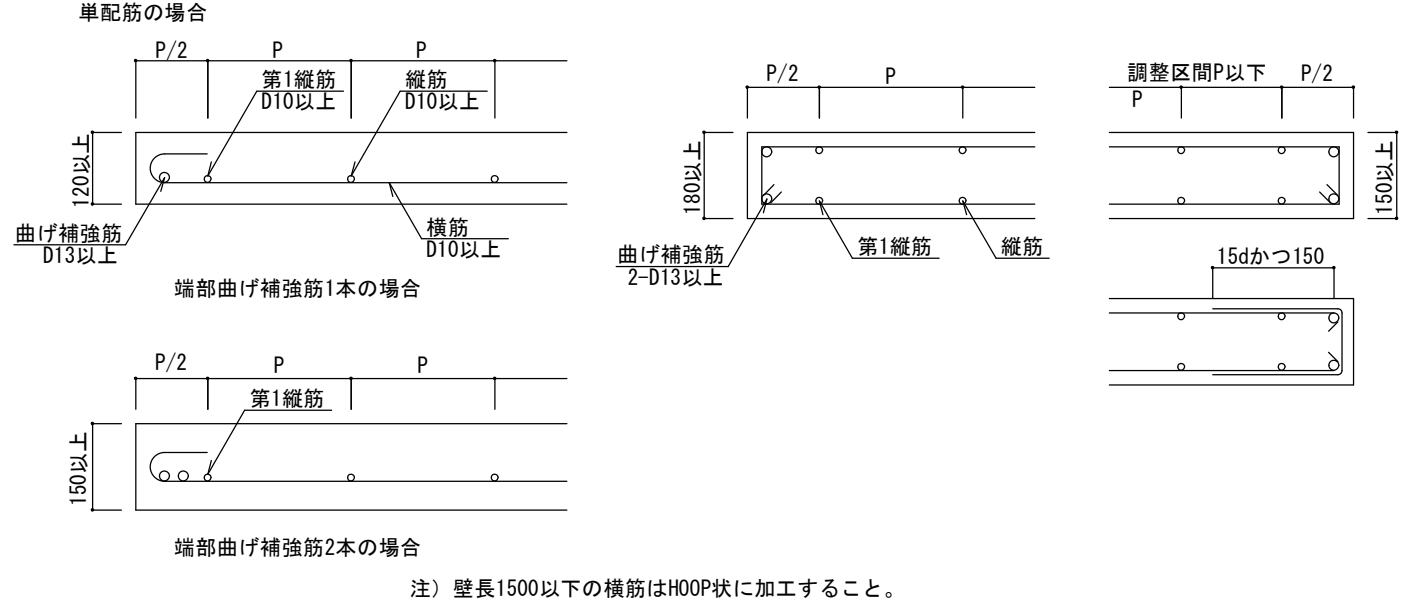
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



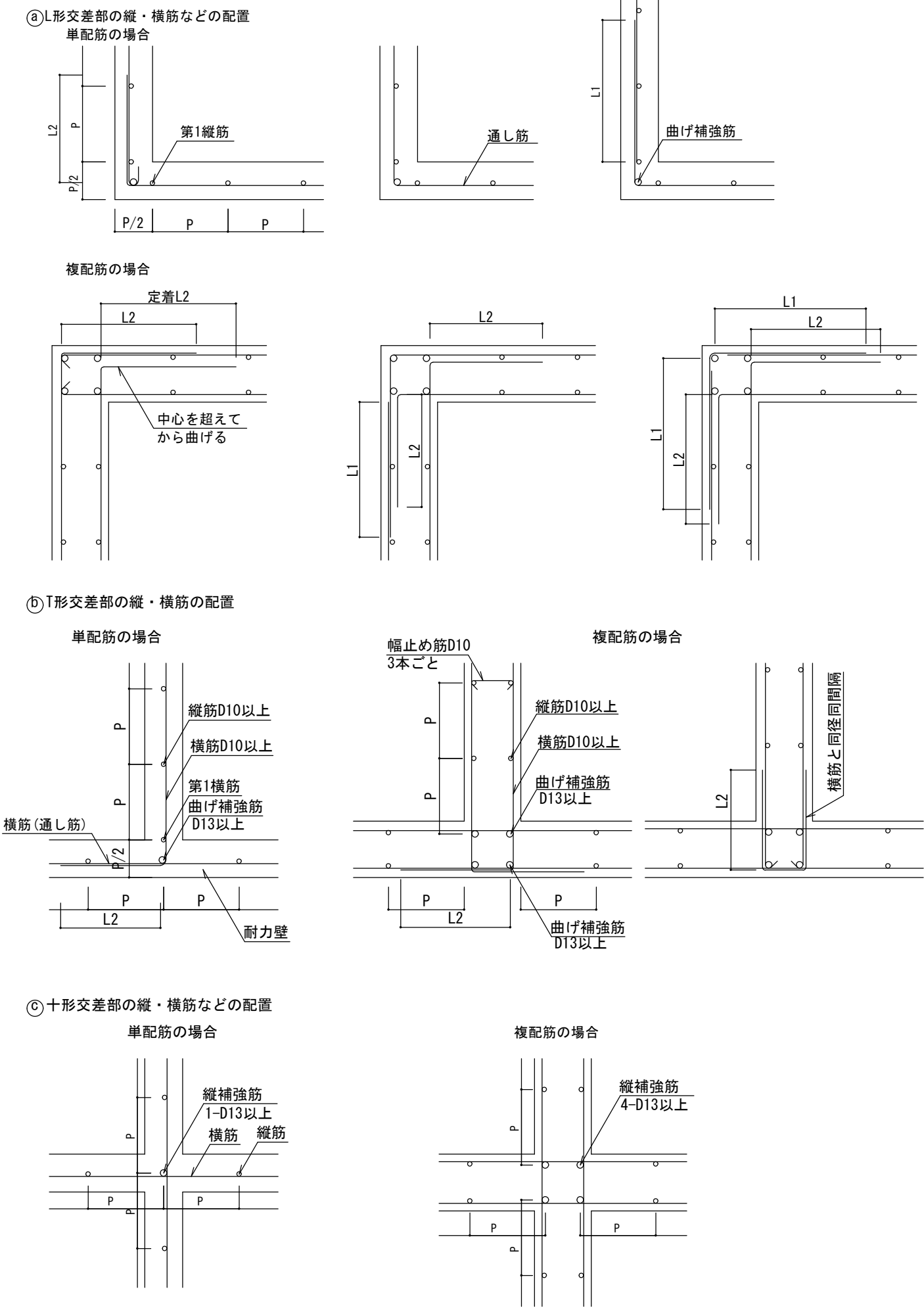
(2) 上・下階耐力壁の各種配置



(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



(4) 耐力壁が交差する場合(平面)

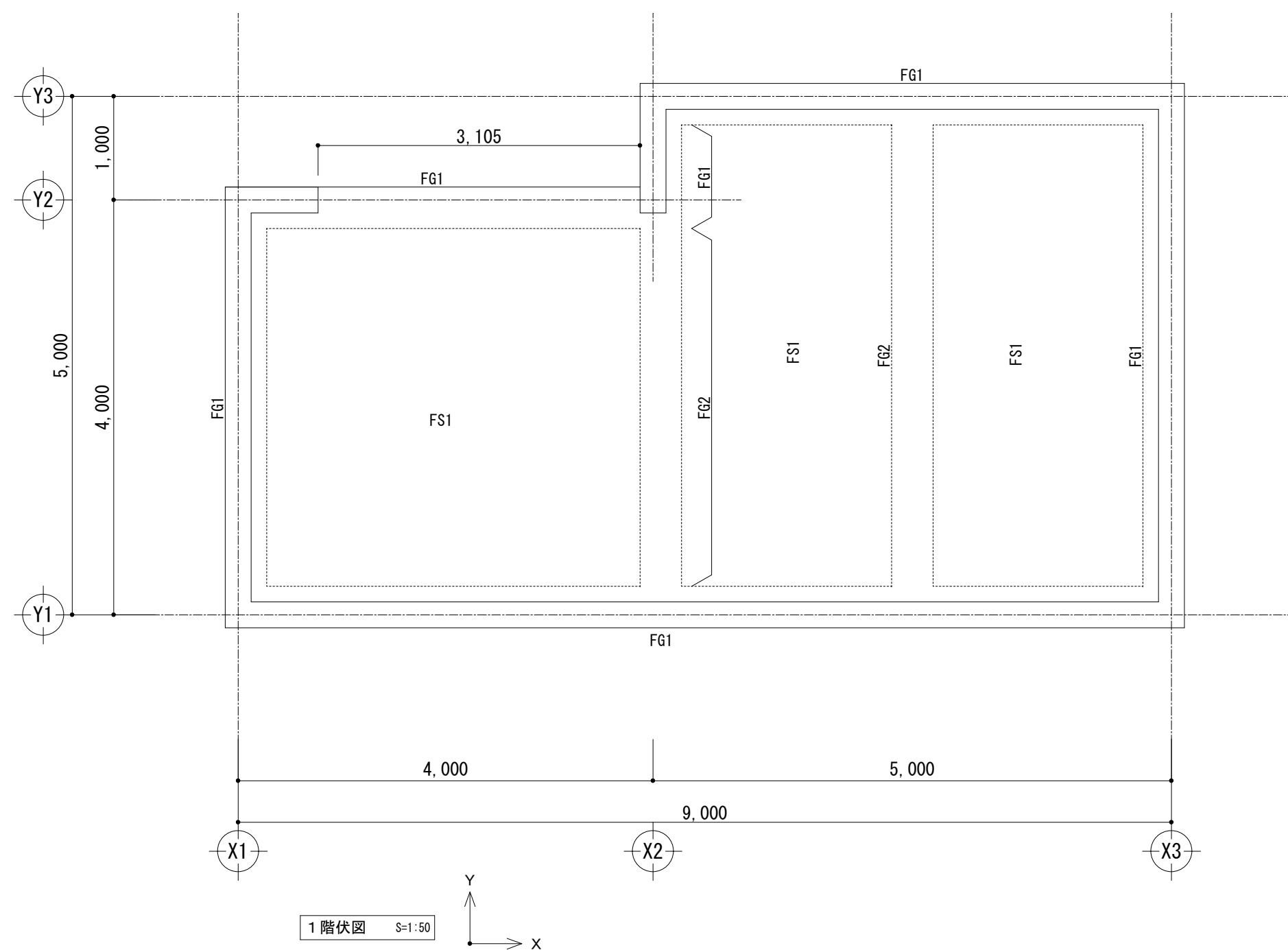
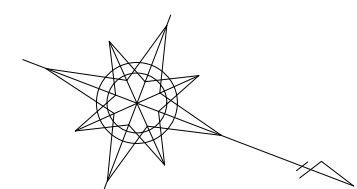
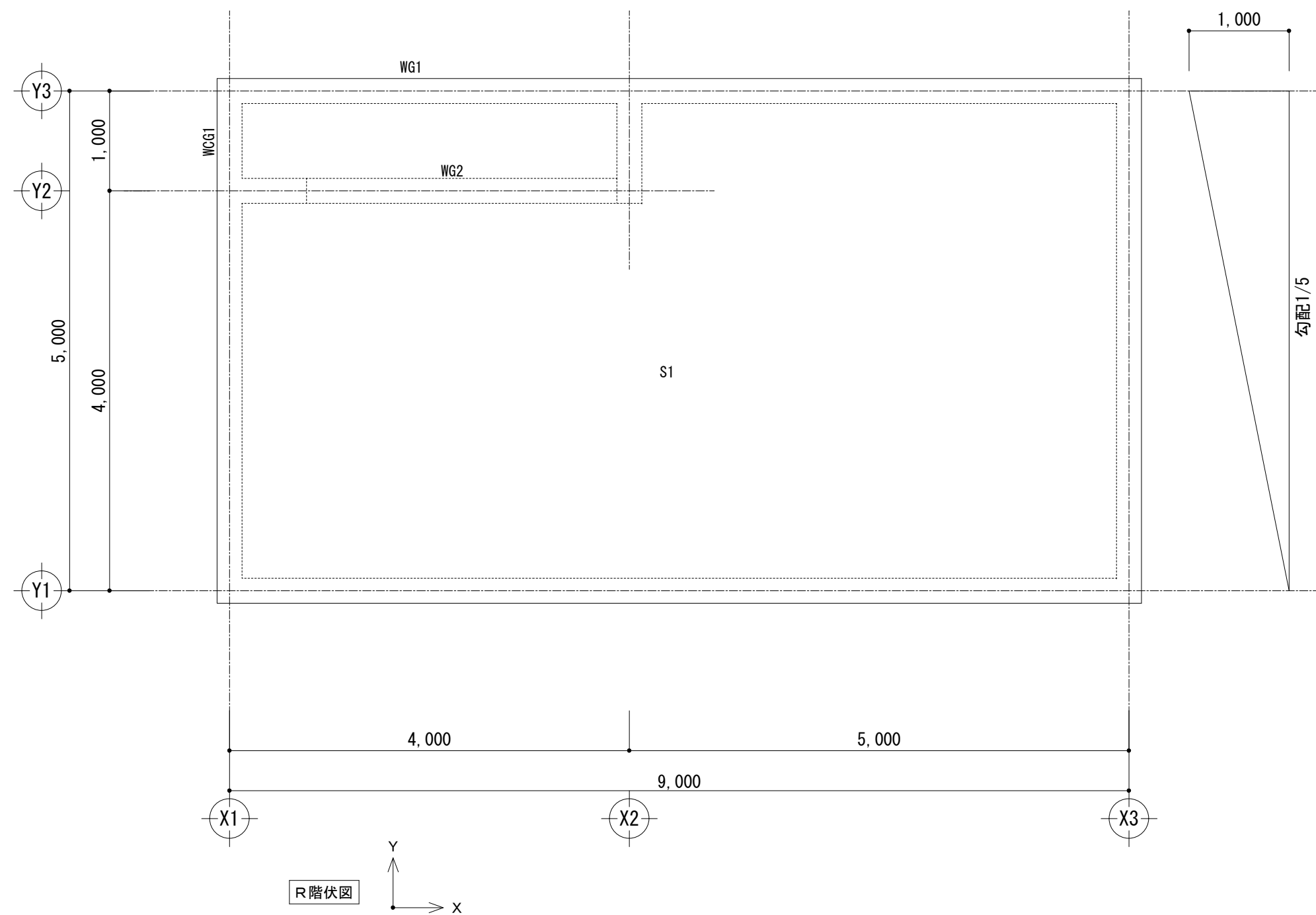


6. 使用可能な鉄筋の最大径（標準）

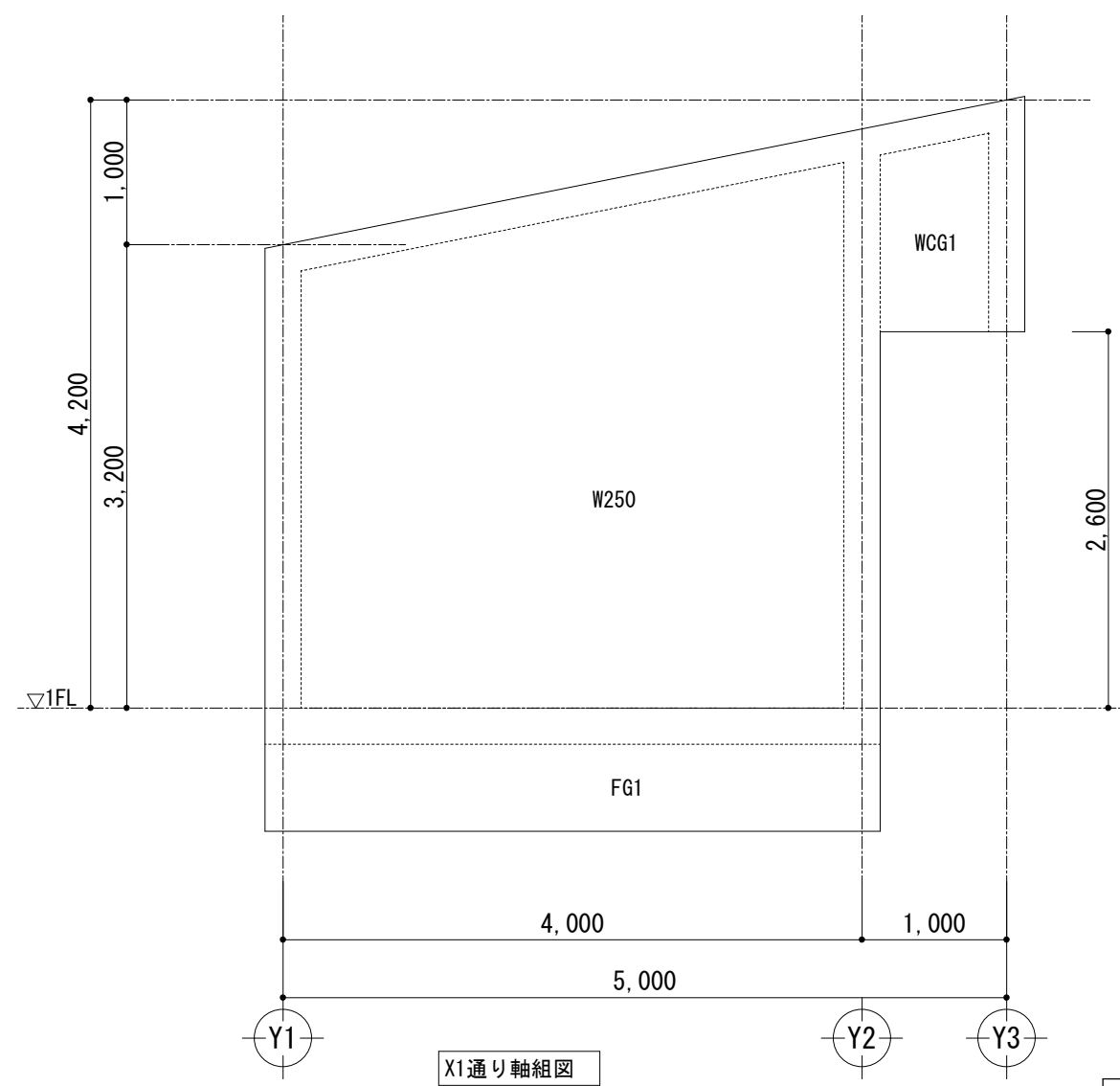
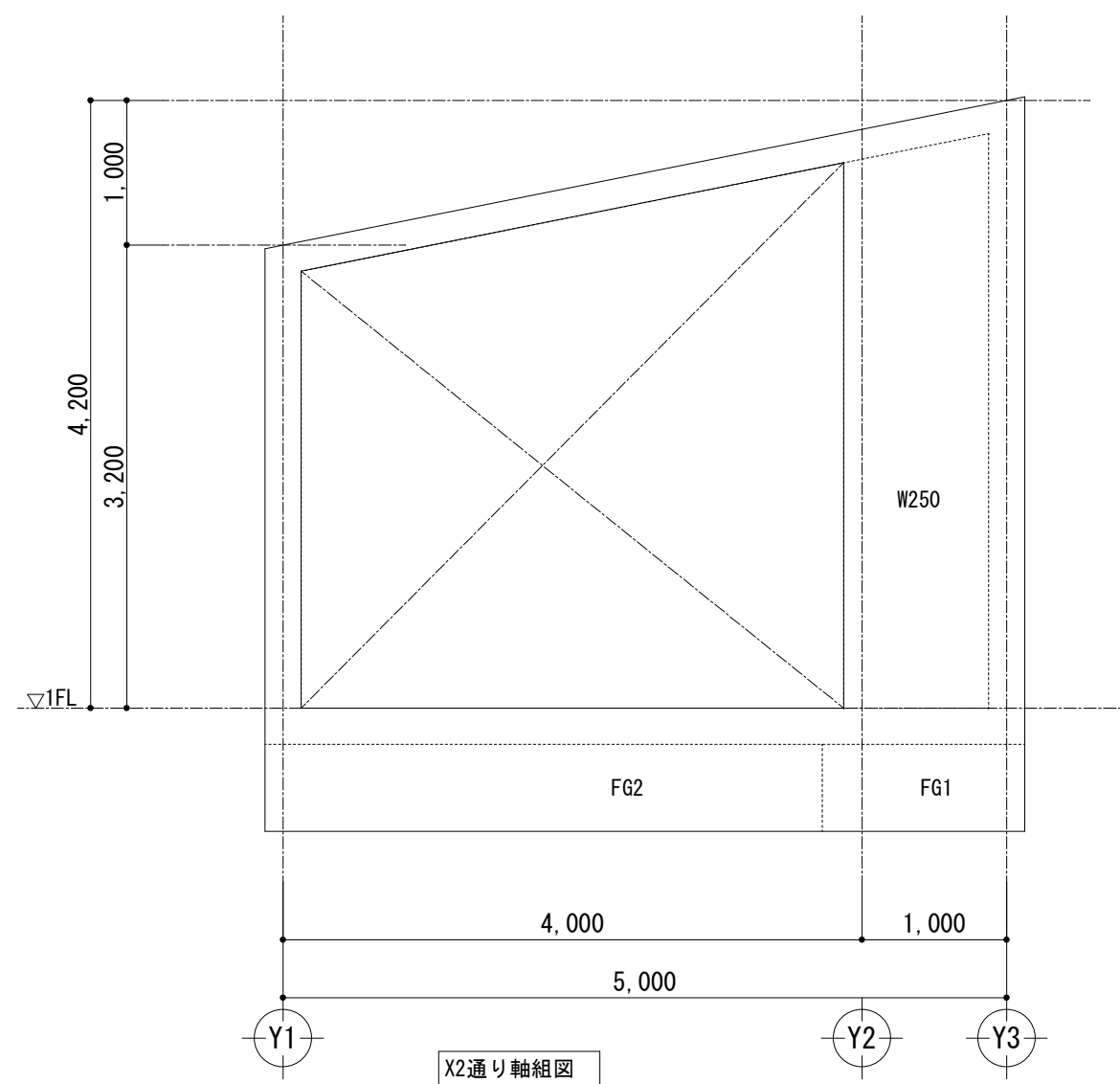
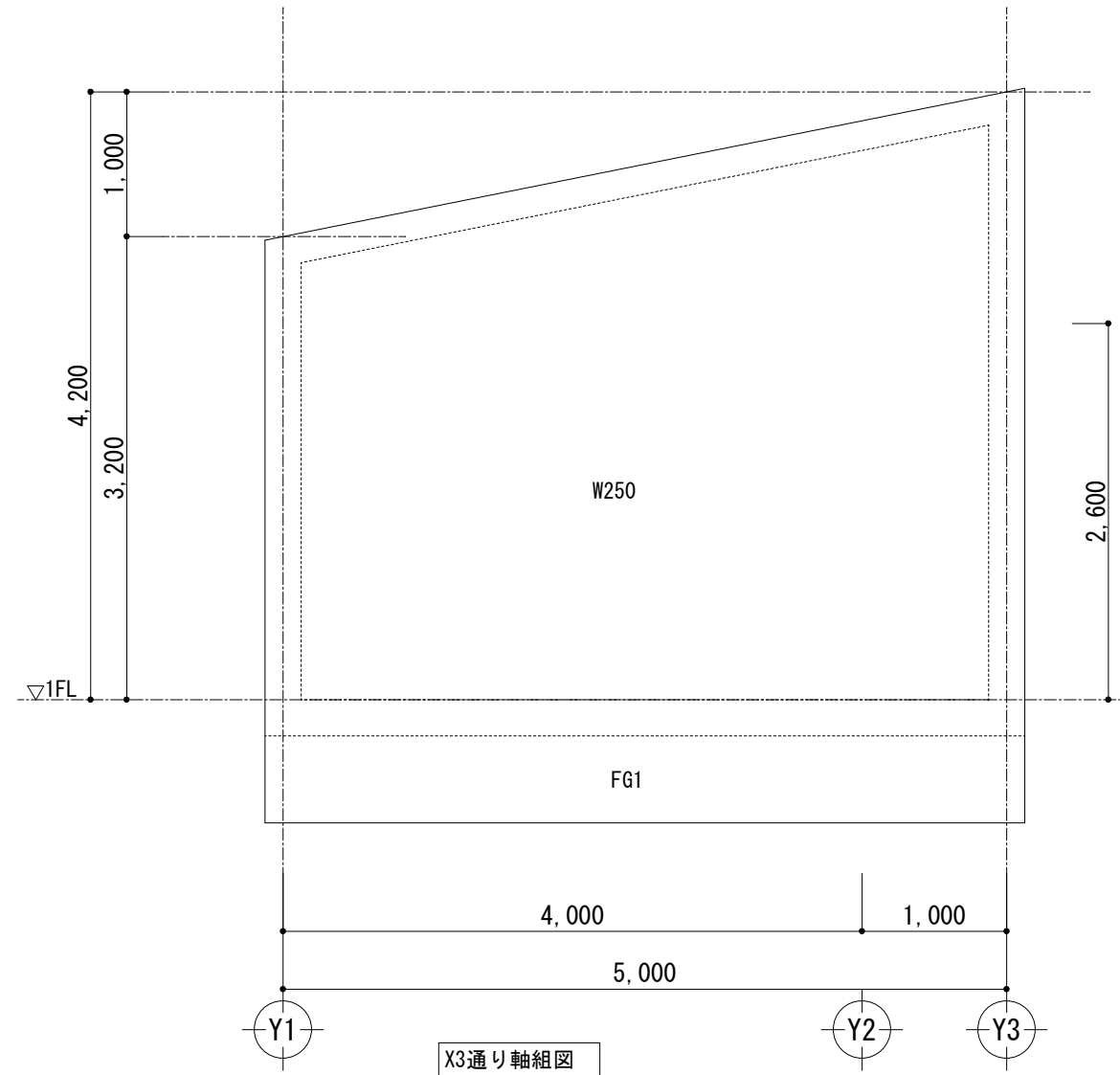
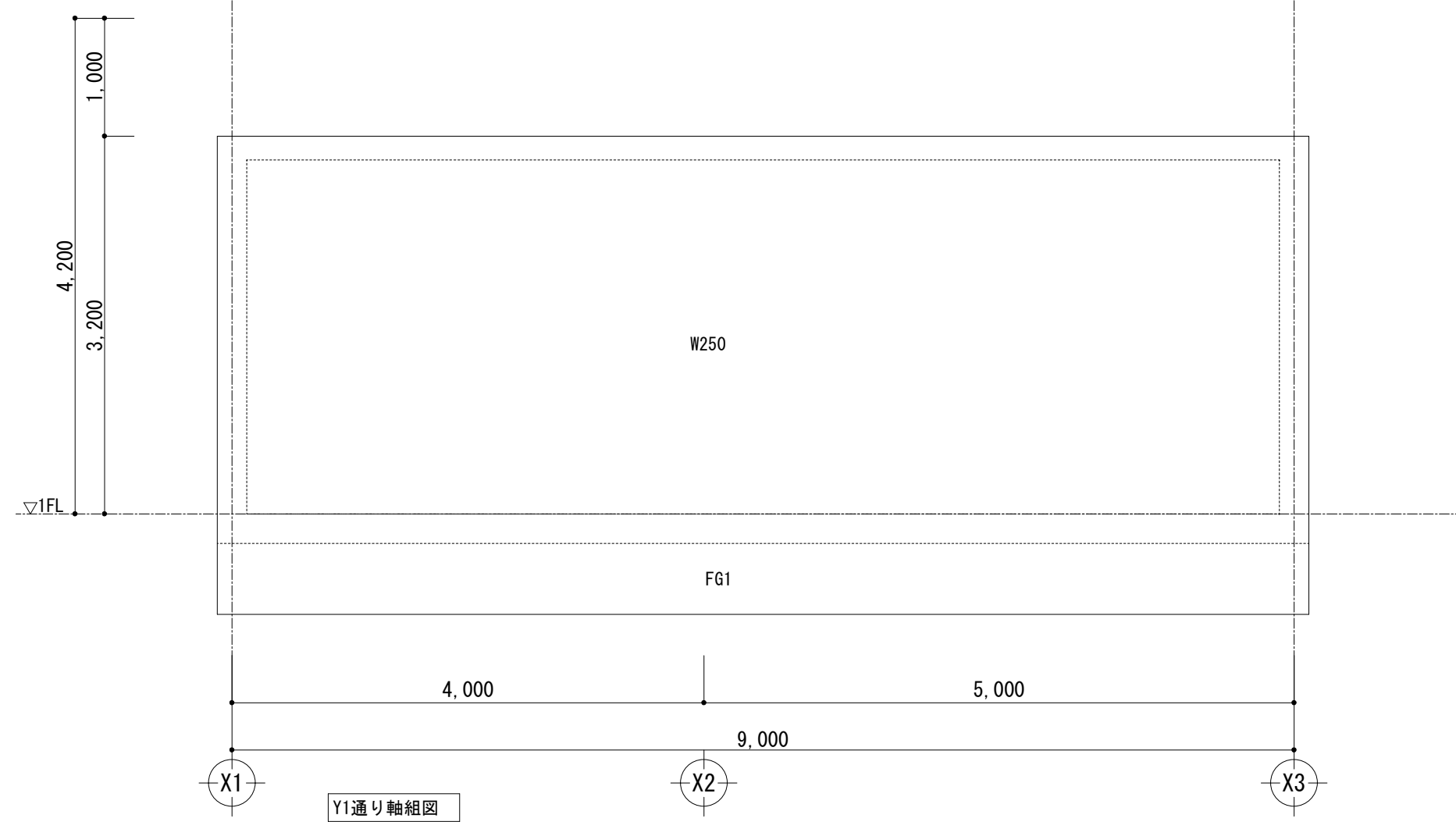
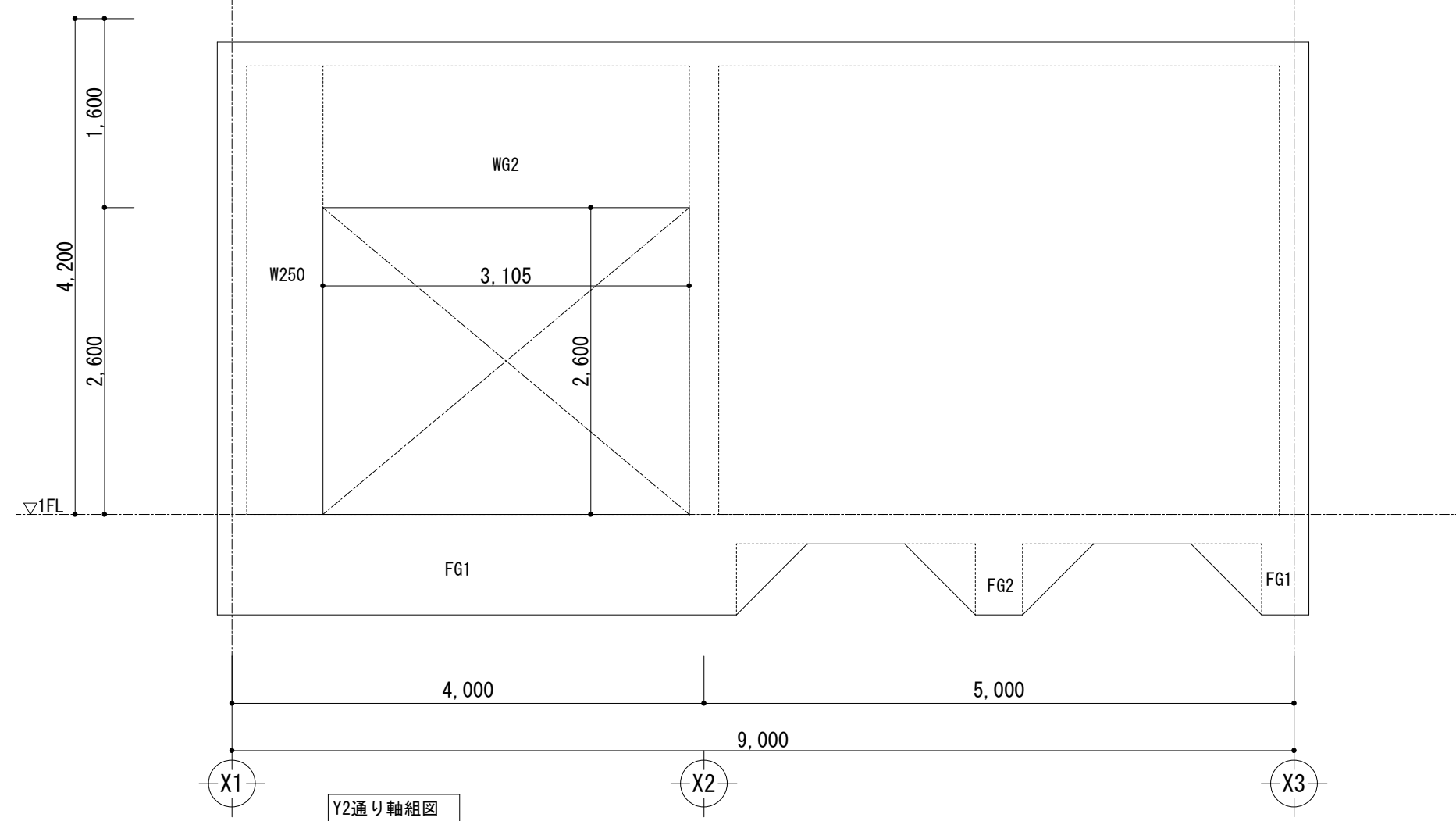
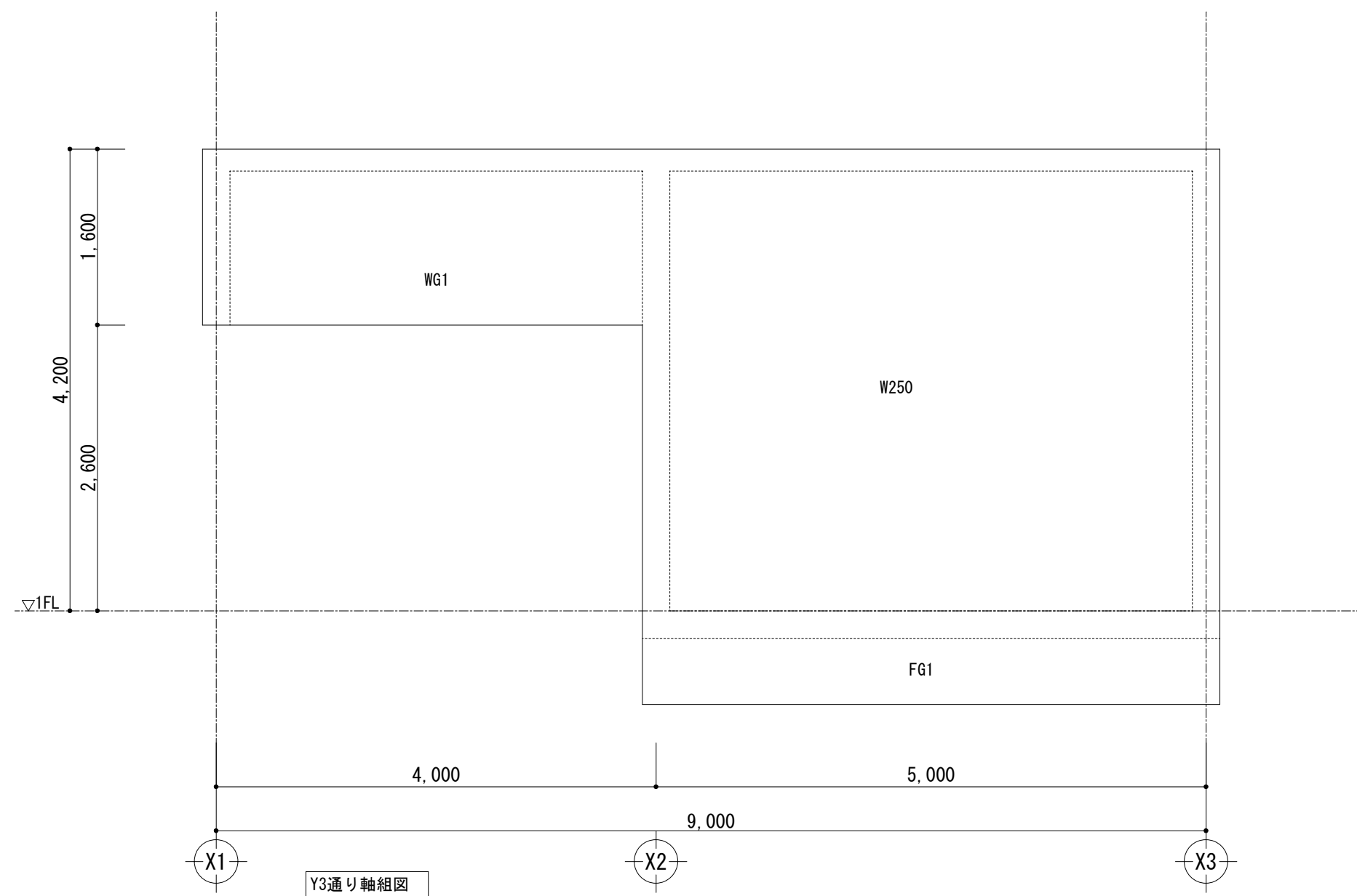
部 位	耐力壁	壁 梁	布基礎	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別		がりがよう 小梁	基礎 基礎梁			
壁式鉄筋	D22	D22	D25	D16	D16	D16
コンクリート造						

課長 係長 審査 担当 承認 担当 作図

年度	工事件名	北区総務部営繕課
R05	特別養護老人ホーム清水坂 あじさい荘大規模改修工事	
図面名称	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	設計事務所名 株式会社 平安設計
縮尺	(A1) NON (A3) NON	図面番号 S-03
		一級建築士事務所登録 東京都 第16285号 一級建築士登録 第347492号 吉森 新平



- 特記なき限り以下とする。
1. スラブ天端レベルは、1FL±0とする。
 2. 基礎梁天端レベルは、1FL-250とする。
 3. 長期地耐力 $\geq 50\text{kN/m}^2$ とし、SWS試験（5ヶ所で実施）または同等の試験により確認すること。
 4. 壁は、W250とする。

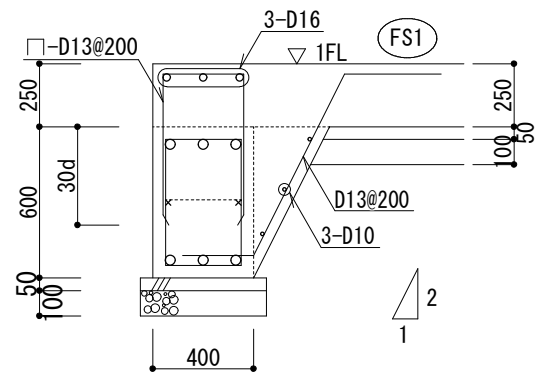
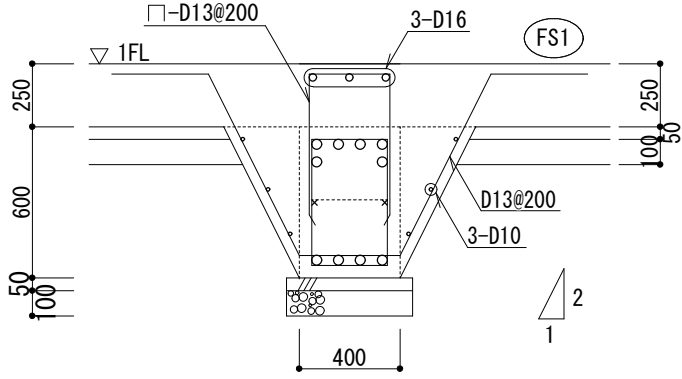
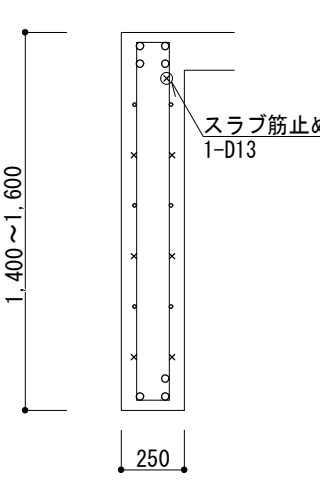


課長	係長	審査	担当	承認	担当	作図

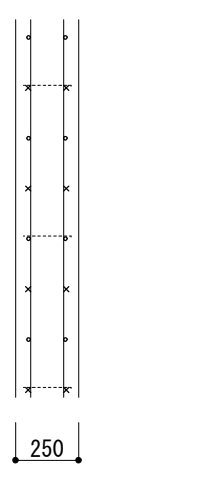
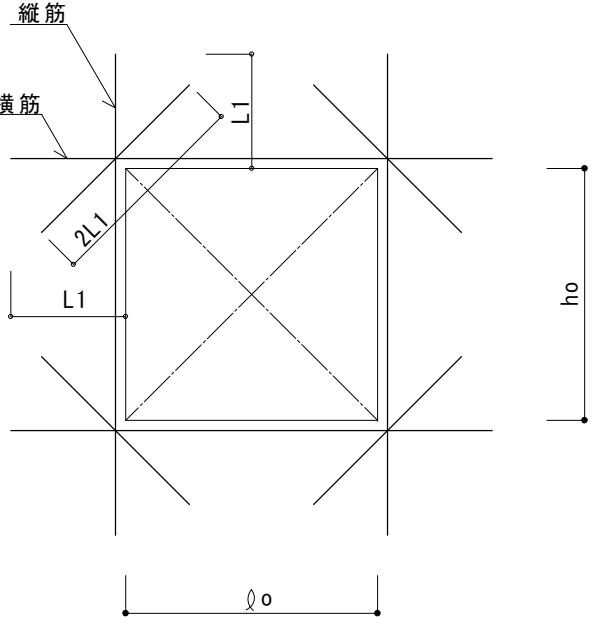
年度	工事件名	北区総務部営繕課
R05	特別養護老人ホーム清水坂 あじさい荘大規模改修工事	
図面名称	防災倉庫構造図・伏図軸組図	設計事務所名 株式会社 平安設計
縮尺	(A1) 1/50 (A3) 1/100	図面番号 S-05
		一級建築士事務所登録 東京都 第16285号 一級建築士登録 第347492号 吉森 新平

基礎梁・大梁断面表 1/30

特記なき限り下記による
1. 巾止筋：▽-D10 #1000以内

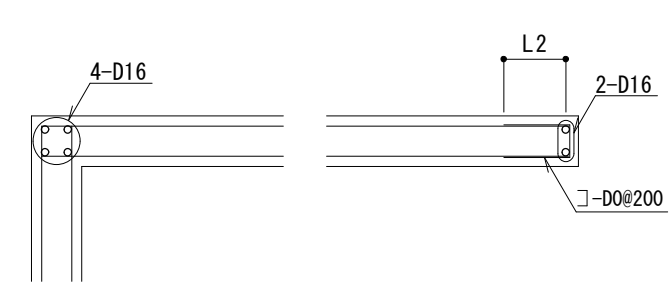
符 号	FG 1	FG 2	WG1 (WG2)	WG1
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面				
BxD	400 x 600	400 x 600	250 x 1375 (1575)	250 x 1400～1600
上主筋	3 - D22	6 - D22	3 - D16	4 - D16
下主筋	3 - D22	4 - D22	3 - D16	3 - D16
スターラップ	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D10 #200	□-D10 #200
腹 筋	2 - D13	2 - D13	壁・横筋と同径同ピッチ	壁・横筋と同径同ピッチ

壁断面表 特記なき限り下記とする。
1. 巾止め筋は、D10 #750以下 とする。

符 号	W 2 5	開口部一般補強図
縦断面		
縦 筋	D13 #200ダブル	
横 筋	D10・D13 #200ダブル	
開口補強筋	縦 筋	
	横 筋	
	斜 筋	

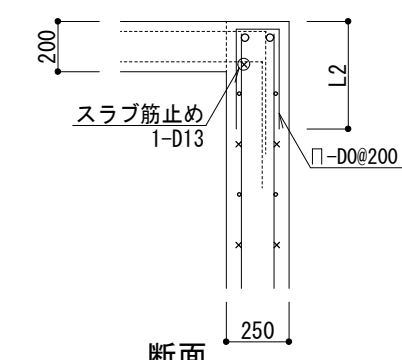
床断面表

符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向		配 力 筋 方 向		備 考
			端 部	中 央 部	端 部	中 央 部	
S1	200	上 筋	D13 #200	←	D13 #200	←	屋根
		下 筋	D13 #200	←	D13 #200	←	
FS1	250	上 筋	D13 #200	←	D13 #200	←	
		下 筋	D13 #200	←	D13 #200	←	



平面

隅角部・端部補強要領図



断面

壁頂部補強要領図

課長	係長	審査	担当	承認	担当	作図

年度	工事件名	北区総務部営繕課
R05	特別養護老人ホーム清水坂 あじさい荘大規模改修工事	
図面名称	防災倉庫構造図・断面表	設計事務所名 株式会社 平安設計
縮尺	(A1) 1/30 (A3) 1/60	図面番号 S-06
一級建築士事務所登録 東京都 第16285号 一級建築士登録 第347492号 吉森 新平		